

計画の目的

今後さらなる高齢化の進行が予測される状況において、利便性の高い公共交通の確保や維持を図るとともに、誰もが利用しやすく、地域において持続可能な公共交通体系を構築することは喫緊の課題となっている。民間事業者による公共交通サービスの縮小等により、既存公共交通の再編・交通サービスの維持確保について計画的に対応することが求められている。

こうした背景を受け、「久喜市地域公共交通計画」では、公共交通に係る現状と今後の課題を整理し、最も効率的かつ持続可能な移動手段の確保について検討し、今後の久喜市の公共交通の指針となることを目的とする。

計画の構成

昨年度検討内容

- ①久喜市の都市概況
- ②公共交通の現状把握
- ③移動に関するニーズの把握

④まちづくりの方向性について整理・把握

⑤地域公共交通の課題整理

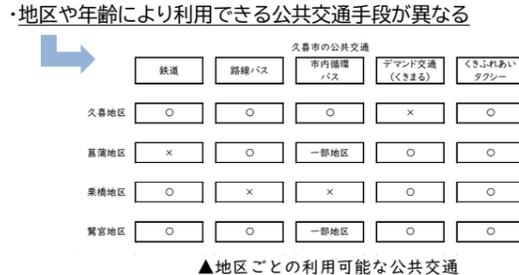
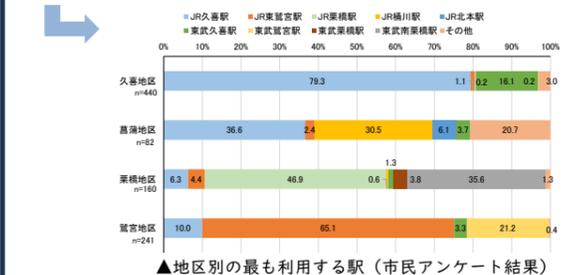
今年度検討内容

- ⑤ 計画方針の検討、⑥ 計画目標の設定
- ⑦ 施策・事業の検討
- ⑧ 計画推進に向けた体制の検討
- ⑨ 地域公共交通計画とりまとめ

久喜市の現状整理

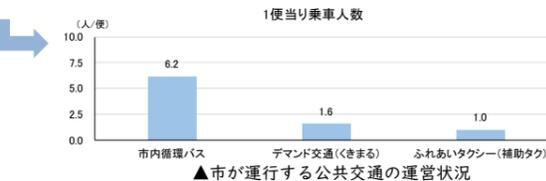
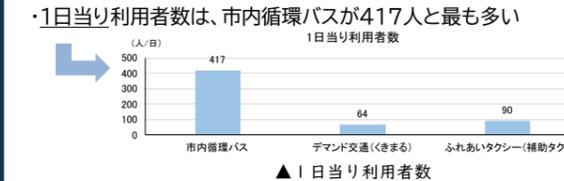
公共交通の現状

- ・東京都内、さいたま市への通勤者が多く、JR線の利用が多い
- ・**菫蒲地区は、路線バスで、JR線の久喜駅、桶川駅、白岡駅方面に分散**
- ・公共交通の利用不便地域が、菫蒲地区や栗橋地区、鷲宮地区に存在
- ・バス及びタクシー運転手の高齢化、担い手不足
- ・地区や年齢により利用できる公共交通手段が異なる



久喜市が運行する公共交通の現状

- ・料金優遇措置が、妊産婦等には無い
- ・1人当り市負担額は、デマンド交通が2,601円と最も高い
- ・1日当り利用者数は、市内循環バスが417人と最も多い
- ・収支率は、ふれあいタクシーが60%と高く、その他は10%前後
- ・1便当り利用者数は、デマンド交通とふれあいタクシーは1~2人が多い



久喜市の今後のまちづくり

- ・将来都市構造は、駅をはじめとした6つの「都市核」と3つのゾーンで構成
- ・基本目標は、「豊かな自然と調和し便利で快適な住み心地よいまちをつくる」
- ・令和9年度、菫蒲地区に2つの新たな公共施設を整備予定

市民の公共交通に対する意見

<久喜市の運行する公共交通の不便や不満に思っている点>
 市内循環バス:運行本数が少ない、乗りたい時間に便がない
 デマンド交通(くきまる):運行エリアが限定、希望時間に予約が取れない
 くきふれあいタクシー:利用したい時間帯や曜日に運行していない

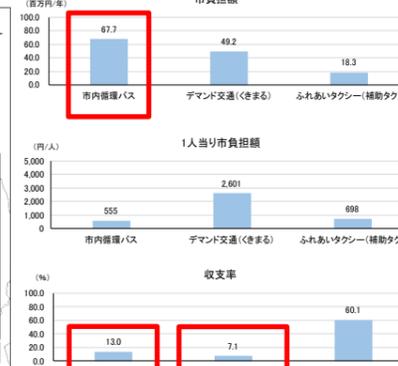
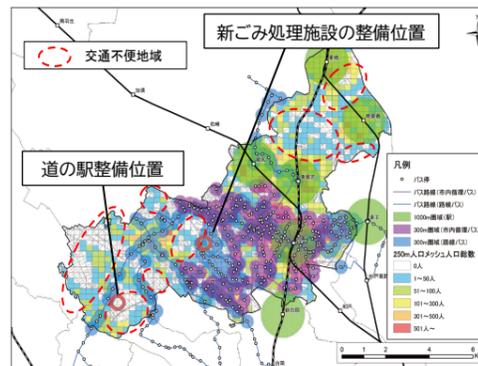
<外出時の交通手段について>

- ・外出時に交通手段に困った人が25%前後あり、栗橋地区では14.1%がよくあると回答している。



公共交通の課題

市の公共交通運行状況からの課題



課題

- ・社会情勢の変化や利用者のニーズに応じた公共交通の見直し
- ・情報提供の拡充等による公共交通の認知度及び利用率の向上
- ・市の負担額と収支率の改善
- ・公共交通の担い手である運転手不足への対応

分析内容

- ・市民アンケートでの認知度は、デマンド交通(くきまる)は46.0%、くきふれあいタクシーは26.9%で低い結果となった。
- ・路線バス及び一般タクシー事業者へのアンケートにて、運転手退職者の増加、高齢化などが挙げられた。

市の今後のまちづくりからの課題



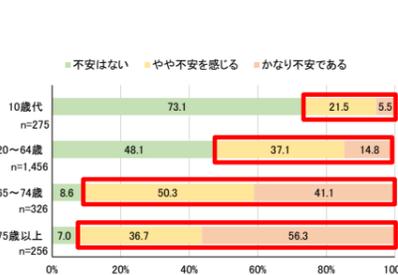
課題

- ・駅などの公共交通の拠点地域への移動における利便性の向上
- ・新たに整備される公共施設へのアクセス性の確保
- ・各施策と連携した交流人口等の拡大

分析内容

- ・関連各課ヒアリングより、農業振興拠点となる道の駅(R9年度供用)、新たなごみ処理施設の整備(R9年度供用)が計画されている。上位関連計画では、拠点等を位置付けており、移動支援や施設へのアクセス性確保が課題となっている。

市民の意向からの課題



分析内容

- ・外出時に交通手段に困った人が25%前後。
- ・10年後の公共交通に、年齢が上がるほど不安のある人が増えており、65歳以上の人では、9割以上の人が不安を感じている。

課題

- ・外出時交通手段に困った人、特に送迎してもらえない人への日常的な移動交通手段の確保
- ・将来高齢になっても外出しやすい、安心して利用できる公共交通の確保
- ・「料金の見直し」や「現行の費用の範囲内でのサービス等を見直しによる運行継続」

